

自分なりの視点から、 洗い加工を探求していきたい。

水島 樹

生産



もっと生の声

Q & A

— やりがいを感じるときは、どんな時ですか？

洗い加工といっても、様々な手法があるのですが、ひとつひとつの加工の仕組みを知り、その技術を習得していくことで、以前はできなかった加工ができるようになっていくことです。加工の世界は知れば知るほど奥深いです。今まで知らなかったことが分かるようになり、さらに自分でできるようになることにやりがいを感じています。

— 思い出に残っているエピソードはありますか？

自分が担当したブリーチの量産加工で、初めて一度目の色合わせで上司のOKがもらえ、仕上げまでの工程がスムーズに進み、期日内に出荷できたことです。工程がスムーズに流れることが、生産量や納期にも繋がってくることを常に意識して仕事をしているのでとても嬉しかったです。

— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

ファッションに関わる仕事は流行が目まぐるしく変わるため、常に新しい課題があり、そして新しい学びもあります。日々経験を積んで身に付けた技術は、自分自身の成長の証しだと思っています。探求心のある方は、そんなファッション業界でぜひ一緒に頑張らしましょう。



友人の誘いから山陽ハイクリーナーへの入社を決めた水島さん。「もともと古着が好きだったこともあってジーンズの加工に興味がありました。また、ジーンズは、昔は作業着だったものが時代とともに普段着へとスタイルが変わったもの。そういった歴史のあるジーンズの加工や製造をしている会社というところに魅力を感じたのも入社理由のひとつです。」入社したての頃、新品のジーンズが着古した様に加工されるのを目の当たりにしたときは、とても感動したといいます。

入社3年目となる現在は、ジーンズの洗い加工を担当しています。「加工の仕組みは理解できてきたのですが、自分の思う色や風合いに仕上げるのはまだ難しいです。使う薬品の種類、量、時間などによって仕上がりは変わってきますし、その日の天候の影響も受けます。仕事には慣れてきましたが、そういった状況に合わせた調整にはまだまだ経験が必要です。」そして、「まだ経験したことのない加工が何種類もあります。ひとつひとつの加工の仕組みを学んで技術を習得したら、様々な加工を組み合わせた、今までにない加工にも挑戦してみたいです。」と意欲あふれる水島さん。

この仕事を始めてから、休みの日に古着屋で好みの服を見つけたときは、どんな加工をしたら再現できるのかなと考える様になったといいます。「デザインやものづくりにも興味があるので、加工の経験を積んだら、製品の企画にも関わってみたいです。」将来の目標を胸に水島さんの挑戦は続きます。

